

わい性台木「ヒリュウ」の「豊福早生」に対する適応性

ヒリュウ台の極早生温州「豊福早生」は、カラタチ台に比べ樹冠の拡大が抑えられ、樹高の低いコンパクトな樹形となる。一樹当たりの収量は少ないが、単位樹冠容積当たりの収量は多く、着色が早く、糖度の高い果実が生産される。

農業研究センター 果樹研究所 常緑果樹研究室 (担当者: 榊 英雄)

研究のねらい

ヒリュウ台の温州ミカンは、樹高の低いコンパクトな樹形となり省力栽培が可能で、果実は糖度が高いことから、温暖で降雨の多い西南暖地では普及が期待される。

そこで、極早生温州の中でも樹勢が強い「豊福早生」について、ヒリュウ台による低樹高化と品質向上効果について明らかにする。

研究の成果

1. ヒリュウ台「豊福早生」の樹は、カラタチ台に比べ幹周、樹高、樹冠容積とも小さく、結果期以降では樹冠拡大がほとんどなく、その傾向が一段と強くなる(図1、図2)。
2. 一樹当たりの収量は、ヒリュウ台に比べカラタチ台が多いが、単位樹冠容積当たりの着果数はヒリュウ台が多い(表1)。
3. 収穫果実の階級割合は、ヒリュウ台がカラタチ台に比べS果、M果の割合が高く、2L果の割合は減る(データ略)。
4. 果実品質は、ヒリュウ台がカラタチ台に比べ着色が早く糖度が高い(表2)。

普及上の留意点

1. ヒリュウ台は未結果期においても樹冠拡大はカラタチ台に比べ劣る傾向があるので、十分な肥培管理が必要である。
2. ヒリュウ台では、初着果時に着果過多となると樹冠の拡大が抑制されるとともに、翌年の着花・果も少なくなるので、初年目の着果過多には十分注意し、樹冠上部は無着果とする方がよい。
3. カラタチ台に比べ収穫果実が一階級程度小さくなるので、カラタチ台よりやや少なめの着果量とする。
4. 有効土層の深い園および収穫前に降雨が多い場合は、品質が低下する恐れがあるので、マルチ被覆による品質の安定化を図る必要がある。
5. 強風により倒伏しやすいため、支柱等が必要である。
6. カラタチ台に比べ植栽距離を狭くし、収量の確保を図る必要がある。

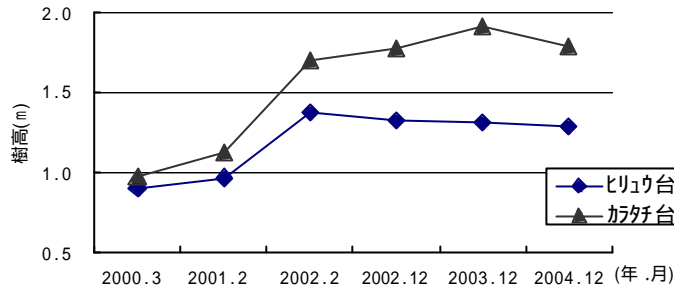


図1 ヒリュウ台「豊福早生」樹高の推移
 注)1.1999年4月に1年生苗を植え付け
 2.2002年より着果

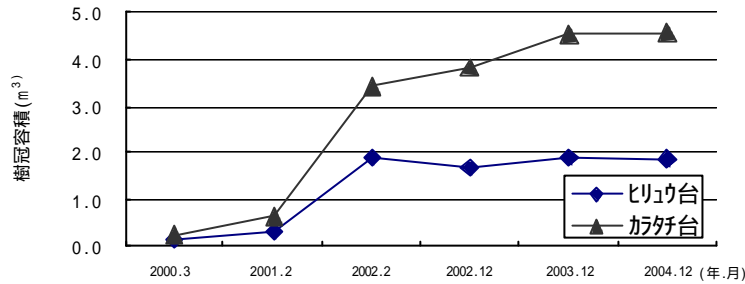


図2 ヒリュウ台「豊福早生」の樹冠容積の推移

表1 ヒリュウ台「豊福早生」の収量の推移(2002~2004年)

	樹当たり収量			3ヶ年累計収量	単位容積当たり着果数			一果平均重		
	2002	2003	2004		2002	2003	2004	2002	2003	2004
	kg	kg	kg	kg	個	個	個	g	g	g
ヒリュウ台	14.0	17.5	25.8	57.4	63.9	78.4	131.4	150.8	128.5	107.4
加好台	15.9	27.6	45.0	88.5	23.8	46.7	81.8	194.3	133.9	122.6
有意性	ns.									

注) Tukey法による1%以内()、5%以内()の有意性

表2 ヒリュウ台「豊福早生」の果実品質(2003年、2004年)

	分析果平均重(g)		糖度(Brix)		可溶性固形物		フエン酸(g/100ml)		甘味比	
	2003	2004	2003	2004	2003	2004	2003	2004	2003	2004
ヒリュウ台	128.0	123.4	9.5	9.2	10.75	10.48	0.79	0.54	13.59	19.34
カラタチ台	134.4	143.1	8.4	8.9	9.62	10.14	0.83	0.56	11.60	18.12
有意性	ns.				ns.		ns.			

注1) 2003年10月16日採収、10月20日分析、2004年10月12日採収、10月20日分析